

2026年7月19日 聖霊降臨後第八主日礼拝説教
「果てしない時の中で」（イザヤ44章6～8節）

○預言者イザヤ

- ・紀元前8世紀、南王国ユダの預言者。彼が亡くなった後の未来についての言葉も語る。ユダが滅びる前からバビロン捕囚、来たるべき救い主、新天新地のことまで預言した。

⇒イザヤ44章では、バビロンに囚われていく民が、やがて神の憐れみによって、ユダへ帰されることに触れている。

今日のみことば：イザヤ44章6節

「わたしは初めであり、終わりである。わたしをおいて神はない。」

- ・神は、すべてを造り、すべてを滅ぼす御方でもある。
- 「だれか、わたしに並ぶ者がいるなら…」（7節）
- ・つねに生きて、人々と関わり続ける神が、ほかにいるか。

○イザヤ44章7節

「(神が) *しるしを定めた日から 来るべきことにいたるまでを告げてみよ。」

- *【直訳】これから起こすこと、その先に必ず訪れる未来のこと
- ☞キリストにより預言者の言葉は、すべてが、そのとおりに。

「恐れるな、おびえるな。」（8節）

※いまがどうであっても、確かな未来は備えられている。

○ローマ8章18節

「現在の苦しみは、*将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りない」

- *見える御姿で来たるイエスと共に御国へ導かれること。

○ローマ8章23節

「*体の贖われることを、心の中でうめきながら待ち望んでいます。」

- *いまある体からキリストに似た〈新たな体〉へと換わる。
- ※来たるべきことは、あなたへ告げられたとおりになる。